



ゆかり通信

VOL. 291

令和 4 年 4 月

SENSHOJI

2022 YUKARI NEWSLETTER

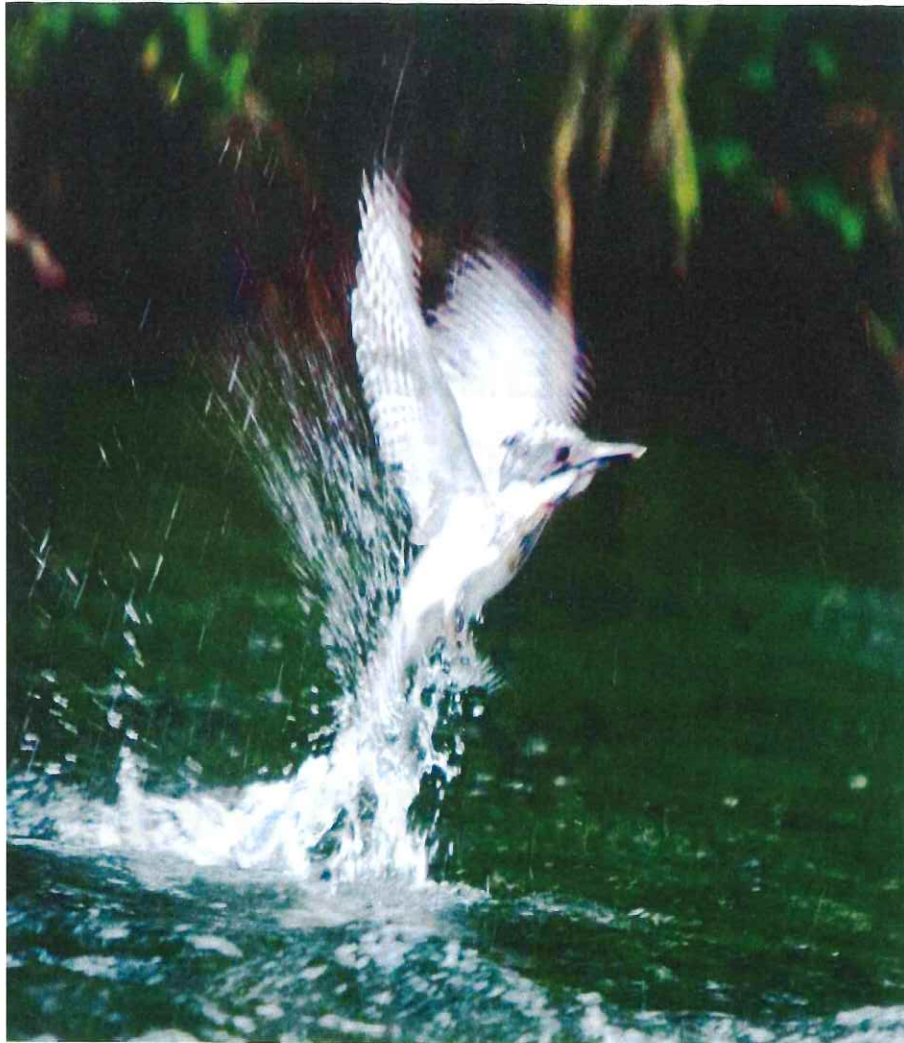
since 1994

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2022年千正寺カレンダー 4月の言葉



早朝に千歳川で水浴び/ヤマセミ

幸せとは
何かを得ることでなく、
得たものを大切にすること。

子供の頃、どうしても欲しいおもちゃがありました。

「あのおもちゃさえ買ってくれたら、もう何にも要らない」と言って、何とか買ってもらったのに、自分のモノになった瞬間から、飽きてしまうんですね。欲しいものが手に入らないで苦しむ世界を「餓鬼」と言います。餓鬼には「有財餓鬼」と「無財餓鬼」があり、財産があってもあっても貪るものを「餓鬼」と呼ぶんですね。

僕が子供の頃、水は井戸から釣瓶で汲んでいました。お風呂はマキを焚いていました。「三種の神器」冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビの時代です。お風呂から出て扇風機を独占していると「お前ばかり使うな!」と、兄に叱られました。「あ～自分だけの扇風機が欲しいな～」と思いました。頑張っ頑張っ、働いて働いて…、今は扇風機を買うことが出来ました。

子供の頃、「8時だよ?全員集合」が見たかった。祖父はニュースが見たい。祖母はドラマが見たい。「あ～自分専用のテレビが欲しいな～」と心底思いました。頑張っ頑張っ、働いて働いて…、今は、携帯電話で、色んな番組が見れるようになりました。番組だけじゃないんです。カメラも、手紙も送れて、天気予報まで教えてくれるんです。第一、携帯電話なんかは、子供の頃から考えると「鉄人28号」「ウルトラマン」の世界です。あんな小さい機械で、世界中の人と話が出来ると、夢の様な世界の筈ですよ。

それで私たちは、幸せでしょうか?

まだ欲しいものがありますよね?これだけ恵まれているにも関わらず、まだまだ欲しいものだらけ…。私たちの日暮は、正に! 餓鬼の日暮ではなかったでしょうか?この言葉に、何だかとても恥ずかしい気持ちになりました。

真宗を喜ぶ「妙好人」の一人、源左さんの言葉に、「親からもろうた手は、つよいんだのう。いっかな、さいかけせえでもええけのう」と。「さいかけ」とは山陰地方の方言で、摩耗した鋤すきや鍬くわの刃先の鉄を付け替えることで、つまり“手は付け替えなくていいからね”と言われているのです。なるほど、農作業の道具は、使えば折れたり摩すり減ったりして、使い物にならなくなります。しかし、親からもらった手は、どんな道具より丈夫な素晴らしい宝物だ、と喜ばれているのです。頂いたものを大切に、感謝して使わせて頂く…。

僕は「幸せ」の意味を、取り違えていたのかも知れませんね。

(文: 桜庭尚吾法務員)